

かねざわ 第41号

平成24(2012)年5月

- ・ 本号から会報名称を変更、表紙全体をリニューアル
- ・ 本会代表および各分科会代表の年初方針掲載 (P2-6)
- ・ 5月で通算 100 回講座、5つの記念事業を実施 (P10)

目次

“わ”の方針

2 “わ”の会は 14 年目を迎えました 小俣 悦男

分科会今年度方針

4 寺社を巡る会 松本 和俊

4 古文書を読む会 真田 雅行

5 ふれあいの道歩こう会 宮原 宏至

5 懐かしの映画を観る会 佐藤 晃

6 浮雲俳句会 北野 清市

新任・退任の挨拶

7 運営委員就任のご挨拶 内田 孝知

7 新米運営委員より 金久保常二

8 運営委員就任挨拶 吉田 博

8 運営委員の退任にあたり 吉田 寿紀

9 「古文書を読む会」代表退任にあたって 岡田 満

運営委員会からのお知らせ

10 100 回講座記念事業

11 「フォーラムKANAZAWA」参加報告

12 “わ”の会蔵書・資料

学習会

14 学習会の概要とアンケート結果

分科会からの便り

16 「懐かしの映画鑑賞録」 No.6 佐藤 晃

20 「浮雲俳句会」抄録 No.17 北野 清市

歴史研究

23 六浦あちらこちら(1) 熊谷 哲

27 『吾妻鏡』を読む(4) 小倉 英明

行事予定

28 6月～8月の予定



金沢区生涯学習 “わ” の会

ホームページ: <http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル: yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

“わ”の会は14年目を迎えました

代表 小俣 悦男

今年

も自然に深呼吸をしたくなるような明るい陽光につつまれた季節になりました。会員の皆様方にお変わりなくご健勝にお過ごしのことと存じ上げます。早いもので金沢区生涯学習“わ”の会は創立14年目の春を迎えました。今年度も“わ”の会が会員皆様方に少しでもより豊かな生甲斐を感じて頂けるよう、また、皆様の地域における拠りどころの一つであり続けていけますような運営を心掛けて参ります。

新年度会員数

今年度は12名の新しい仲間を迎えることが出来ました。昨年度13名の退会者が出ましたので、新規会員の募集を行い、12名の方から応募を頂き、全員に入会をして頂きました。従いまして今年度の会員数は121名です。特筆すべきは30代の方が2名、50代の方が1名入会された事です。平均年齢が1歳強下がりました。

今年度の学習会

会員の皆様には既にご周知を頂いています様に“わ”の会の学習会活動の軸は金沢の歴史を学ぶ事であります。今年度もこの方針のもと、じっくりと腰を据えて学習会を進めて参りたく存じます。第1回目の5月は会員が講師を務めます。会員による講座の4回目になる今回は「古文書を読む会」の伊達一雄氏に講師をお願い

致しました。「古文書を読む会」の10周年記念事業で金沢道を歩き、道標・古文書を切り口に調査・完成した冊子を会員に配布し、それをテキストにしてお話をさせて頂きます。6月は100回記念講座で、日本中世仏教史の泰斗県立金沢文庫長 永村 眞氏に講演をお願いしました。テーマは「称名寺と金沢氏」、内容は、「称名寺の創建からその発展過程を僧侶集団と金沢氏との関わりを通じて考える」です。7月と9月はシリーズ講座第3回目です。金沢とも縁の深い三浦一族の興亡について話を聴きます。講師の真鍋氏は初登壇ですが、青山学院大学講師の他に横須賀市市史編纂室でお仕事をされており、三浦一族の研究におかれましても新進気鋭の研究者として知られております。また、10月の探訪では横須賀地区、三浦一族の跡を訪ねます。11月は『かねざわ歴史事典』編集委員長熊谷 哲氏による永享の乱の金沢合戦を踏まえたお話が聴けます。ご期待ください。

100回講座記念事業

平成11年5月にスタートした学習会は、公開歴史講座を含めて本年5月で100回目の講座を迎えました。この機会を捉え、記念行事を行います。第1は記念講座で、上記に述べました金沢文庫長の永村 眞氏に記念講演をお願い致しました。第2は記念パーティーで、積極的にご参加頂きたいお願い致します。第3は記念品で、全会員とお世話になった先生方などへ配布

致します。第4は100回全資料の合本作成で、閲覧可能と致しました。第5は100回講座一覧表の全会員への配布です。

15周年記念事業について

来年度は“わ”の会創立15年目の節目に当たります。節目を大切にしていくのは、今や“わ”の会の伝統といっても過言ではありません。かつての10周年では、「金沢区民歴史講演会」、「新版かねざわの歴史事典」、「“わ”の会10年の歩み」、「変わりゆく横浜・金沢の風景」のネット上展開の4つの事業を企画し、何れもが会員皆様方の絶大なるご支援のもと成功裡に完遂致しました。来年度の15周年記念事業に際しましては2つ程度に絞ったうえで行いたく思案中です。折をみて、会員の皆様方からもアンケートの形でご意見を賜りたく存じております。

分科会10周年記念事業を支援

“わ”の会の特色であります分科会は、6分科会とも引き続き活発に活動を継続されておられ、会員の約80%の方が何れかの分科会に入られておられます。その分科会も「寺社を巡る会」は、昨年度、県立金沢文庫主任学芸員永井晋氏による「金沢北条」をテーマに記念講演会を開催、合わせて記念パーティーを行ないました。今年度は、「古文書を読む会」が10周年記念行事として、40ページに及ぶ冊子本「道標等で辿る金沢道」を発行しました。来年度は「ふれあいの道歩こう会」の順番です。引き続き費用・広報等で支援して参ります。

対外活動について

(1)フォーラム KANAZAWA

今年3月に区役所との共催で行われた第9回「フォーラム KANAZAWA」では、例年通り“わ”

の会からも担当となった運営委員がその実行委員会のメンバーとして企画段階から参加しました。また、当日には会場設営・撤収、アンケート回収などに運営委員の全員が協力しました。“わ”の会の展示ブースでは来場された多くの区民との交流を目的に、学習会や分科会活動などについて展示と説明を行いました。また、新規会員の募集も行い3名の方から入会申し込みを受け、入会を頂きました。

(2)横浜郷土史団体連絡協議会

ご存知の会員の方も多きことと存じますが、“わ”の会は横浜郷土史団体連絡協議会の創立(平成18年)以来のメンバーです。会員の皆様方には年数回行なわれます研修会などへ積極的にご参加頂いております。会員の皆様には、年4回発行されます連絡協議会Newsをその都度配布し、研修会などの活動情報を提供すべく引続き心掛けて参ります。なお、より迅速な情報提供の観点から連絡協議会Newsの電子化を事務局へ申し込んでおります。また、連絡協議会へは“わ”の会の代表である小生が出席しております。

次期代表について

平成21年度の総会で会則の改訂を行ない「代表の任期は2年。再任は1期とする」にさせて頂きました。この規則に沿い、来年度は新しい代表へバトンタッチを致します。切れ目のない円滑な会の運営を行う観点からも出来るだけ早い時期に運営委員会内で話し合いを行い、次期代表を内定、並走する形で順次引き継ぎを行なっていきたく考えております。よろしくご理解を賜りたくお願い致します。



寺社を巡る会

松本 和俊

「寺社を巡る会」は、昨年、発足 10 年を迎え、記念事業として金沢文庫主任学芸員の永井晋氏を講師として「金沢北条氏」についての講演会を実施しました。

次の 10 年に向けた最初の年になる今年は、金沢近郊の寺社を中心とした史跡を探訪します。磯子区、港南区では金沢札所を中心に訪れます。

鎌倉ガイド協会と当会のプロジェクトチームがそれぞれ担当地区を決めて、探訪先の選定から探訪当日のガイドまで行います。会員は全員がいずれかのプロジェクトチームに属し、何らかの役割を分担する全員参加のプロジェクトです。この作業を通じて知識の向上はもとより、企画力、説明力などの向上も期

待されます。

11 月には恒例のバスによる特別探訪を行います。今年は「房州に日蓮の聖跡を巡る」として、誕生寺、妙蓮寺、清澄寺などを訪れます。

当会は“わ”をモットーに楽しみながら学習する会です。歩くことにより体力の維持、向上を図るとともに、いつまでも若々しい頭脳を保つことを目標に活動しています。

月 1 回の定例会の後は、希望者による「反省会」という名の懇親会を開催し、さらに親睦を深めています。

今年は 5 名程度の新入会員を募集します。ご一緒に楽しい探訪をしませんか。

古文書を読む会

真田 雅行

当会は年度を 1～12 月とし、月 2 回の学習を第一と第二に分け第一学習は地元の「鹿島家文書」と「慶珊寺文書」を、第二学習は興味を引きそうなものを選び今年は「江戸時代の相模・江戸地震」と「坂下門外の変」を学習することになっている。

地震では特に神奈川や東京に大被害を与えた元禄小田原地震及び幕末近くに頻発した安政大地震や嘉永大地震を採り上げる。

坂下門外の変や蛤御門の変では開国か鎖国かをめぐる前後の緊迫した一連の事件、即ち東禅寺事件、坂下門外の変、寺田屋事件、八月十八日の政変、蛤御門の変等を古文書で学習する。

なお特記事項として今年 1 月から各学習会で学習した概要を“わ”の会のホームページに掲載して誰でも学習記録を見れるようにしたので是非参考にさせていただきたい。

ふれあいの道歩こう会

宮原 宏至

今年度は10年目に入り、「関東ふれあいの道」のすべてのコース踏破を目標と致します。23年度までに1都5県を終了致しました。残りは茨城県の8コースのみとなり、順調に進めば、25年1月に144コースすべて踏破となります。

具体的には茨城県の山岳2コースと平地6コースの8コースです。加えて7月には番外編として長野県の「霧ヶ峰と北八ヶ岳」一泊二日を予定しています。

来年度は10周年になりますので、記念行事として“わ”の会の会員を対象とした「弘法山ハイキング(25年4月)」の準備に取り掛かります。また同じく10周年記念に「ふれあい記録集NO3」の発行を予定しております。これは以前発行した「ふれあい記録集NO1」「ふれあい記録集NO2」に続く「NO3」であるとともに「総集編」となります。

今年度最大の課題は「関東ふれあいの道」踏破終了後の「ふれあいの道歩こう会」の形、内容をどのように方向づけするかです。「関東ふれあいの道」を歩くために作られた「会」ですから、完了後は解散が自然ですが、多くの会員より存続希望が強く、継続は決まりました。なお、継続後の形、内容については秋までに決めたいと考えております。

※「関東ふれあいの道」とは、1都(東京都)6県(神奈川・埼玉・群馬・栃木・茨城・千葉)をぐるりと一周する長距離自然歩道で、総延長は1,665kmです。

※弘法山(秦野市) 関東ふれあいの道
神奈川県9番コース 海拔237m

懐かしの映画を観る会

佐藤 晃

「懐かしの映画を観る会」では観賞する映画の大部分は会員のアンケートにより決めています。今年度の第1位は外国映画では「インドへの道」、日本映画の第1位は「喜びも悲しみも幾歳月」でした。このほか会員の了承を得て、代表推薦の映画を外国映画5本、日本映画3本を選びました。24年度の観賞映画は総会資料別表10の通りです。

当会が発足してから8年経過し、これまで約170本の映画を観ておりますが、戦後の1950年代～1970年代のいわゆる映画黄金時代の名画の中にはまだまだ、観ていない名画が残されております。その時代、映画を観て、泣いて、笑って、スクリーンの美男、美女に胸をときめかし、青春時代を共有した仲間の多くが当会の会員だと思います。「インドへの

道」「ジャイアンツ」「イースター・パレード」等の外国映画、日本映画では「喜びも悲しみも幾歳月」「黒い雨」等「もう一度見たい」という気持ちが会員の投票に表れております。

今年度のお勧めは、日本映画の「人間の条件」です。五味川純平の長編小説を小林正樹監督が1959年1月から1961年にかけて3年がかりで全6部として製作した映画で、総上映時間は9時間31分に及びます。日中戦争の最中、満州の国策会社に勤務する梶(仲代達也)は、自分の生き方に忠実であろうとして、さまざまな困難に出会い、苦悩します。50年前

にこの映画に出会った時、梶を自分に重ねて「自分ならどうする」と自問自答しながら梶と共に9時間余を過ごしたことを思い出します。当時、丸の内ピカデリー劇場で一挙上映されましたが、9時間粘って観た方もおられるのではないのでしょうか。私は、気持ちだけは当時の自分に戻りたいと、50年ぶりのこの映画との再会を楽しみにしております。「人間の条件」は第1部、第2部は来年3月25日(月)、第3部以降は来年4月、5月に観賞する予定です。

浮雲俳句会

北野 清市

本年度の「浮雲俳句会」の活動重点は、「山岳俳句へのトライ」と「品格のある句づくり」に指向する。

① 山岳俳句へのトライ

現代俳句からは「自然詠」が減少している。その原因は、科学文明の発展に対して、人間全体の自然への畏敬の念が希薄になったことが挙げられる。このため、「自然詠」とりわけ「山岳俳句」を、年間の兼題の一つとして取組み、メンバーの俳句の実力を涵養したい。

一説によると、山岳俳句は、遥かに眺める＝遠望俳句・山の中を歩く＝山国俳句それに山をよじ登る＝登頂俳句に大別出来るというが、これらに拘わらず、いろんな視点からアタックしてもらいたい。

因みに、本年度の山岳俳句の計画について

は、既報の通りだが、要約すると、その対象を、近周りの関東甲信越と東北に限定した。即ち、ご当所神奈川3(箱根・丹沢・円海山)、近県3(筑波・富士・三原山)、北アルプス2(白馬・穂高連峰)それにFukushimaの応援として中通りの“安達太良”と会津の“磐梯山”。トータル、10の山岳をピックアップし、これらにトライしたい。なお、本年度のスタートは〈箱根山〉。フィナーレは伊豆大島の〈三原山〉として、毎月の句会において、「山岳俳句」シリーズに挑戦してゆく計画だ。

春暁や世界の屋根がそそり立つ 一清

② 品格のある句づくり

俳句は、型(かたち)の文学である。と

ころが、メンバーの作句活動も数年経つと、当該自身の作風に固まりがちである。従って、この際先達の残された俳句の中から、五つの「俳句の型（かたち）」を身に付け、自身の俳句を一層レベルアップし、品格のある句づくりに変身してもらいたい。

この点、本年度後半には、次により、再度、五つの「俳句の型」に挑戦する予定である。
来年は

1月＝松尾芭蕉（オール名詞）
2月＝正岡子規（形容詞・名詞・動詞・名詞）
3月＝高浜虚子（名詞・名詞・動詞・名詞）
4月＝湯浅桃邑（動詞・名詞・名詞・名詞）
5月＝富安風生（名詞・名詞・名詞・動詞）
を兼題の二として取り上げたい。

猿限の曾我狂言や初經（芭蕉型） 一清

新任・退任の挨拶

運営委員就任のご挨拶

内田 孝知

昨年5月入会し、9月の学習会で運営委員見習としてご挨拶しました内田孝知です。正式に今日の総会から運営委員となる訳ですが、入会して約1年判らない事ばかりで、あまり戦力になるとは思いませんが、先輩委員に教えられながら、会の発展と充実に尽力するつもりです。皆様のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願いします。

さて 少し自己紹介させていただきます。昭和22年12月生れの戦後の第1次ベビーブーム、団塊の世代の1番バッテリーとして競争、競争で生きて来ました。加えて干支が猪で、猪は往々にして猪突猛進すると言われますが全くその通りです。ですので、会の中で走り過ぎるところ

が見えたら是非軌道修正をお願いします。生れは北海道で小学校3回転校、中学は幸い入学と卒業が同じ、高校は青森で入学、高崎で卒業、大学時代にまた転居、道案内を頼りに帰省すると言う生立ちでした。現在は金沢区に住民票を移してから早くも30数年経ちましたが、単身赴任で横浜を離れていた時期が長く、地元の事が良く判っていません。

わ”の会に入会した事を機に地元の事を良く知り、また皆様ともよりご縁を持てればと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。有難う御座いました。

新米運営委員より

金久保 常二

入会して間もない新人が運営委員会のメンバーに任命されました。

新米運営委員は右往左往・五里霧中のなかを

手探りで歩んでいます。今年度、初めて運営委員を務めさせていただきますが、この大役を私でいいのかとも思いました。あまりの荷の

重さに押しつぶされそうな責任も感じております。しかし、あまり深く考えず、周りの先輩に助け舟をもらい無事に過せたらと思っています。そして、心の栄養として大いなる感動を生む計画を運営委員会メンバーとお互いに協力・努力し合いながら、計画して行きたいと考

えています。

自分ひとりの知恵は限られているけれど、多くの方々の知恵でまだ見ぬ「わ」の会の可能性を引き出せたらと思います。

宜しくお願い致します。

運営委員就任挨拶

吉田 博

私は「わ」の会に平成 23 年に入会し、ちょうど 1 年たちました。

東京より金沢に住みつき 36 年となりますが、暇を見て近くの金沢北条氏ゆかりの県立金沢文庫、称名寺などを見学散歩するくらいで金沢の歴史に関して特に興味知識も有りませんでした。

たまたま昨年「わ」の会に入会する機会に巡り会いこの 1 年間、会の行事に参加したことにより歴史ある金沢を少しでも学習する事に恵まれ改めて歴史ある金沢の町に住んでいることに少し誇りを持ち、幸せを感じることに気がつきました。

さて、このたび「わ」の会運営委員に就任依頼

されましたが、私は会に入会しただけ 1 年の学習経験しかなく運営委員の任務をこなすことが出来るのかいまだに戸惑いを感じています。しかしながら、今回会の委員の一員に選ばれたことで、これからの会の運営企画、新会員確保などの活動に携わることになりますが、今後は会員、運営委員、外部との交流をはかり、皆様のお知恵を拝借し「わ」の会発展向上をめざし私自身出来る限りの努力をしたいと思っております。

最後に私の好きな「わ」の会、五つの総括された言葉を心に締めて皆様とともに会を盛り上げていきたいと思います。

運営委員の退任にあたり

吉田 寿紀

3 年半前、先輩から「運営委員をやってくれないか」という声に押され、又周囲の方からの「全面的にサポートするよ」という「甘い言葉」に乗せられて気軽に運営委員になりました。しかし所属している「寺社を巡る会」では毎月の探訪とその後の『反省会』でほとんどの皆様とは顔見知りでしたが、「わ」の会という 120 名の大所帯の全体の活動や各分科会の動きはほとんど把握していない状態で全くの“新入

生”でした。

引き受けた仕事は会計担当でしたが、その 1 年目の決算では決算金額と実際の手持ち金額が合致しないことが判り四苦八苦をしました。このため数年前まで遡り分析をすると途中から会計方式が変更されたことに起因する事が解ってきました。このため監査人とも相談し会計事務を“素人でも出来る様”に“家計簿方式”（単年度決算）に変更させて頂きました。

また、内田探訪実行委員長の下で探訪の事務局をやらせて頂き2回に分けて行った釜利谷探訪では多くの皆様のご協力のお蔭で何とか職務を果たせたと思っています。

今回老々介護という家庭の事情が有り、まだ

十分皆様の役に立てていないという思いをしながら残念ながら運営委員を退任させていただく事になりました。

これまでの皆様のご指導とご協力に対し心より感謝を申し上げます。

「古文書を読む会」代表の退任にあたって

岡田 満

平成14年5月“わ”の会が自主運営になった初めての年に発足した分科会、「古文書を読む会」に入会しました。

入会したのは男子6名、女子3名の合計9人でした。小生を除く男子5人の方々は実家に古文書があるとか、漢字にご縁のある方ばかりの様でした。

一年半ほど経過した頃、代表のS氏が実家へ転居することになり退会、副代表のU氏も事情があって相次いで退会された。14年入会の男子は4名になってしまいました。あとの代表を決めるのに皆それぞれが代表辞退の事情があって残った小生が代表を引き受けざるを得なくなりました。

平成15年から代表を仰せつかり23年12月に退任いたしました。途中なかなか会員が増えない時期があったり、ほかのことでも苦勞したことが多々ありましたが、何とか任務を果たすことができました。

21年3月発行の『金沢区諸家文書』（横浜開港資料館との協働事業）、24年4月発行の『道標等で辿る金沢道』（「古文書を読む会」10周年記念事業）の2つが良き思い出になります。

在任中賜りましたご支援に厚くお礼申し上げます。退任の挨拶といたします。



100 回講座記念事業

本号の小俣代表挨拶で「100回講座記念事業」に触れていますが、もう少し具体的に説明します。

年7回の定例学習会（探訪を含む）が1999年（平成11）5月に始まり、2005年（平成17）からは公開（歴史）講座が毎年1回追加され、今年5月で100回目の講座となりました。

① 記念講座

これを記念して、「100回記念講座」と銘打ち、県立金沢文庫長の永村眞氏に「称名寺と金沢氏」のテーマで講演していただきます。永村氏の講演は、その該博な知識となめらかな口調で人気があり、いつも満席になります。

② 記念昼食パーティー

講演終了後、横浜市立大学構内の食堂で記念の昼食パーティーを開きます。いままでのご苦労やこれからのあり方などについて懇談した

いと考えております。会員諸兄姉のご参集をお願いいたします。

③ 記念品

5月の総会・学習会当日、記念品を皆様にお配りいたします。「金沢区生涯学習“わ”の会100回講座記念」という名前が入った「時計・温度計付ペン立て」です。

④ 講座資料合本

学習会資料100回分を3冊のキングファイルにまとめました。“わ”の会の蔵書・資料扱いにして、貸出を行います。

⑤ 講座資料一覧表

100回講座の一覧表を作成しました。これは皆様にお配りいたします。

100回記念講座

日時：6月29日（金）10：00～12：00

場所：県立金沢文庫

テーマ：称名寺と金沢氏

講師：県立金沢文庫 文庫長

永村 眞 氏

100回昼食記念パーティー

日時：6月29日（金）13：30～

場所：横浜市立大学 金沢八景キャンパス

シーガルセンター1F食堂

会費：3000円（女性 2500円）



記念品



学習会資料

「フォーラム KANAZAWA」 参加報告

本年のフォーラムは3月10日、以前に戻って土曜日に開催されました。今年の寒い冬を象徴するかのように朝から冷たい雨が降り、昨年の大震災直後だった時と同様に条件に恵まれない開催となりました。

主催は「金沢区生涯学習交流会実行委員会」、共催は「金沢区役所」で例年と同じでしたが、企画・運営の方法が大きく変わりました。このフォーラムは区役所が指揮・運営を行ってききましたが、本年度で9回目と回を重ね成熟してきたこともあり、フォーラムに関わる業務を徐々に移行して、最終的には実行委員会に事業全体を任せたいという意向があり、区役所側が行なってきた業務の多くを実行委員会が担当することになりました。

そのため、すべての参加者・団体が実行委員となり、かつ何れかの作業チームのメンバーとなることが義務付けられました。会長・副会長・会計からなる役員会、役員会と作業チームのリーダーからなる運営委員会と組織を明確にしました。従来の準備作業の他、会議の案内状作成・発送、参加者募集業務、会場レイアウト作成・準備、各種書類・チラシの作成・印刷、備品調達等々事務的な事を含めて多くの事柄を役員を中心に実行委員会が行ないました。“わ”の会からは運営委員1名がアンケート・チームのリーダーとして参加し、アンケート作成・実施・まとめ、スタンプ・ラリー実施・プレゼン

ト用意などを行うとともに、全体の企画・運営に協力しました。

フォーラムの当日は、体育室の展示ブースで“わ”の会の活動内容を展示・説明・会員募集を行いました。従来は会の組織や分科会活動の詳しい説明をしていましたが、来場者がゆっくり見たり読んだりしていかないという意見があり、目につきやすいということを主眼にして写真1のパネルを作成しました。また、写真2のような来場者が立寄りやすい雰囲気作りと丁寧な説明に努めました。そのお陰か、3名の会員応募を得ました。展示や説明にはまだまだ改良の余地がありそうで、来年は皆様方の更なるご指導を期待したいと思います。また、当日は会場全体の設営・撤収・アンケート回収・プレゼント手渡しに当会運営委員が多数参加しました。

公式発表はまだありませんが、参加団体・個人は体育室展示ブース32、多目的室等出演15、体験コーナー等10で例年並み。来場者は天候の関係もあり、昨年と同じくらいの400～500人くらいで、一昨年以前より少ないようです。しかし各ブースとも話し込んでいる来場者が終日見られ、体育室にも琴の音などのBGMも流れ和気藹藹とした雰囲気のように感じました。

悪天候にも拘らず、ご来場いただいた“わ”の会々員の皆様方に御礼申し上げます。



写真1 “わ”の会ブースの展示パネル



写真2 ブースでの来客対応

“わ”の会蔵書・資料

会報 35 号(2010/11)掲載分続く“わ”の会蔵書・資料の一覧です。

この間に、他所から多くの寄贈を受けましたが、その中に混じって会員個人や分科会としての著作物 3 件の寄贈がありました。具体的には、

・No. 56：会員の真田さんが 1 人で東海道沿いの古蹟を尋ねて、写真とともに筆跡の読下しをまとめられたものです。

・No. 60：会員の北野さんが「浮雲俳句会」での句作指導のために句会ごとに執筆されたものを 1 冊の本にまとめられたものです。

・No. 61：「古文書を読む会」創設 10 周年事

業として保土ヶ谷から瀬戸神社までの金沢道を辿り、路傍の道標などを実地に見聞し、筆跡・読下し・解説をまとめたものです。

また、100 回講座記念事業の一つとして、“わ”の会設立以来の全 100 回の講座資料を 3 巻に集成して蔵書・資料 No. 62～63 に加えました。

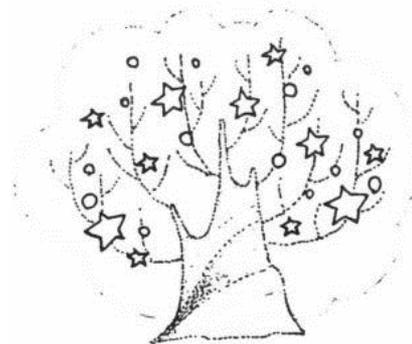
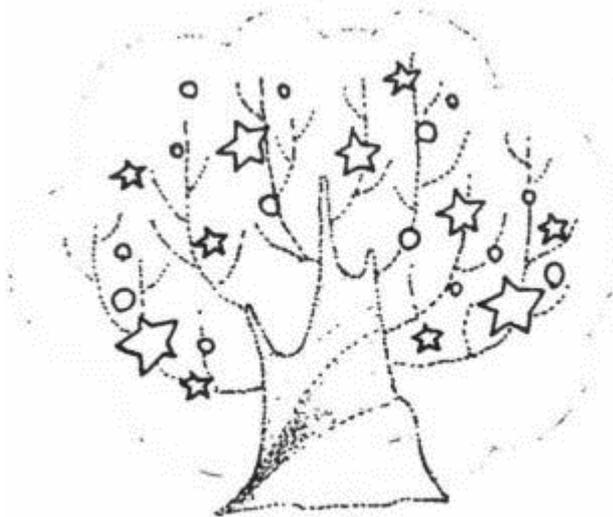
貸出し希望の会員は電話(045-782-8147 小俣)、または電子メール

(yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com)

でお知らせ下さい。

No	著者 編集者	書料 資料名	発行日	発行元	入手日 (入手法)
52	金沢まちづくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト編	能見堂跡地再生 プロジェクト活動報告 よみがえれ！能見堂	2010.10.31	金沢まちづくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト	2011.1 (寄贈・発行元)
53	神奈川県立図書館調査部地域資料課	郷土神奈川 第 49 号	2011.3.1	神奈川県立図書館	2011.3 (寄贈・発行元)
54	横浜郷土史団体連絡協議会	横浜郷土史団体連絡協議会 会報 Vol. 5	2011.4.16	横浜郷土史団体連絡協議会	2010. 4 (寄贈・発行元)
55	横浜開港資料館	横浜開港資料館紀要 第 29 号	2011.3.31	横浜開港資料館	2011.6 (寄贈・発行元)
56	真田雅行	神奈川旧東海道沿いの古蹟 を読む	2011.7	真田雅行	2011.8 (寄贈・発行元)
57	神奈川宿遊学セミナー 横浜開港資料館	東海道神奈川宿 神奈川宿遊学セミナー連続講座 「神奈川の近代～宿から町、 そして区へ～」	2011.7	神奈川宿遊学 セミナー	2011.8 (寄贈・発行元)
58	永井 晋	「寺社を巡る会」 10 周年記念講演会資料 金沢北条氏 鎌倉時代を動かした人々	2011.11.21	寺社を巡る会	2011.11 (寄贈・発行元)

No	著 者 編 集 者	書 資 料 名	発行日	発行元	入手日 (入手法)
59	火曜古文書会	【地域資料を読む 6】 武蔵国久良岐郡森公田村 浜田家・斉藤家文書	2011.12	横浜開港資料館	2012.1 (寄贈・発行元)
60	北野清市	俳句読本	2012.4.15	文芸社	2012.3.25 (寄贈：著者)
61	古文書を読む会	古文書を読む会 10周年記念事業 道標等で迎える金沢道	2012.4	古文書を読む会	2012.4.14 (寄贈：著者)
62	運営委員会	“わ”の会講座資料集 (1) 1999～2004	2012.4	運営委員会	—
63	運営委員会	“わ”の会講座資料集 (2) 2005～2007	2012.4	運営委員会	—
64	運営委員会	“わ”の会講座資料集 (3) 2008～2011	2012.4	運営委員会	—
65	神奈川県立図書館 企画サービス部 地域情報課	郷土神奈川 第50号	2012.2.28	神奈川県立 図書館	2011.3 (寄贈・発行元)
66	横浜郷土史団体連 絡協議会	横浜郷土史団体連絡協議会 会報 Vol.6	2012.4.28	横浜郷土史団体 連絡協議会	2010.4 (寄贈・発行元)



学習会の概要とアンケート結果

公開歴史講座「弘法大師の仏身観」

開催日：2012年2月18日（土）

場所：龍華寺 本堂

講師：龍華寺 住職 和田 大雅 氏

出席：110名（うち会員60名 出席率49.1%）、ピジター50名（うち龍華寺檀家21名）

講演概要

講演は、3月11日の大地震から一年を目前にして住職の発議で東日本大震災の犠牲者へ黙祷を捧げてから始まった。

本題に先立って龍華寺の縁起を「洲崎村龍源寺略縁起」を元に話された。源頼朝が六浦に創建した浄願寺が寺の起りこりで、浄願寺が火災などで衰退した後、明応8年(1499)洲崎にあった光徳寺を併せて融弁上人が開山となって龍華寺が創建された。

本題の「弘法大師の仏身観」に入る。まず、宗教の定義から説き起し、仏教の成り立ちを話された。仏教の源流はインダス文明から始まり、さらに侵入したアリア人の自然現象の神格化による神々の誕生、ブラーフマナ時代のバラモン教(ヒンズー教のもと)、ウパニシャッド時代のジャイナ教の成立と続き、釈尊(BC463～383)に至る。35歳で悟りを開き、その後45年間ガンジス河流域を中心に教えを説いた。

この間、現在も続くカースト制度、マザー・テレサの「死を待つ人々の家」、聖なるガンジス河の話など挿入された。なお、2月15日は釈尊の入滅日であるとのこと。

釈迦の死後、釈尊の教えそのものを知り修行する小乗仏教に対し、一般庶民の救いも含めた

大乘仏典の発生へと仏教の改革発展の時代(AD150～650)が来る。本日のメインテーマである仏、仏陀をどのように捉えるかという仏身観の問題もこのころからの問題となる。たとえば三身説では、釈尊のみを仏とみなす(応身仏)、或いは大日如来(永遠不滅の心理の人格化、法身仏)、阿弥陀如来(過去の本願に報いられてなった仏、報身仏)も仏とみなすか、などという事らしい。空海は法身仏の教えを密教と称し、宇宙全体、真理をそのまま説く「法」を重視した。曼荼羅は大日如来を中心にして、諸尊を配置した図であり、真言密教を図示している。この辺の話になると凡俗の身の筆者には中々難しい。即身成仏の思想や大師信仰の話で講演は終わったが、最後に現在の政治家等への宗教心の必要性に触れられた。

今回の講座のレジュメは難解な内容を歴史から説き起こし、分かり易く簡潔にまとめて頂き、さらに詳しく勉強する人には大いに参考になります。寺縁起や曼荼羅の資料と共にお寺で用意して頂きました。そのうえ中休みには甘酒やお菓子まで御馳走になり、講師をお引受頂いたご住職をはじめお寺の皆様にご世話になりました。(相川)

アンケート結果

① 全体評価

大変良かった：7 良かった：6 普通：2

② 良かったこと

- ・ 仏教について体系だった話を聴いたことがなかったので、有難かった (6)
- ・ 難しい仏身観を易しく話して頂いた (5)
- ・ 弘法大師についてある程度理解出来た(4)
- ・ 顕教と密教の説明(2)
- ・ 大日如来と即心成仏が真言宗の中心であること
- ・ 仏教の歴史と教えの概要が理解出来た
- ・ 弘法大師と空海の使い分け

③ 最も印象深かったこと

- ・ 和田住職の人間味のある温かさを心から感じた(2)
- ・ 心のこもった接待を受け、嬉しさを感じた(2)
- ・ 東北大震災の長野(?)さんに仏身を感じた(2)
- ・ 弘法大師の教え(2)
- ・ 凡聖不二の説明
- ・ 和田住職が良く勉強されている宗教家あること

和田 大雅 氏



龍華寺本堂での講演風景

「懐かしの映画」鑑賞録 No.6

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 23 年度 第 23 回 鑑賞会

眺めのいい部屋 A Room with a View

〈鑑賞日：2012・3・12〉

制作：1986年 イギリス

上映時間：117分

監督：ジェイムス・アイボリー

原作：E・G・フォスター

出演：ヘレナ・ボナム・カーター、マギー・スミス、ダニエル・デイ・ルイス

ジュリアン・サンズ、デンフォールム・エリオット、ジュディ・デンチ

その他：アカデミー賞脚色、衣装、美術の3部門で受賞

あらすじ

1907年、イギリスの良家の令嬢ルーシー（H・B・カーター）は年上の従姉シャーロット（M・スミス）に付き添われ、イタリアのフィレンツェを訪れる。イギリス人観光客がよく訪れるペンションに着いた二人は、彼女たちの部屋がアルノ河に面した眺めのいい部屋でなく、中庭に面していたのでがっかりする。シャーロットが苦情を言うのを聞いたエマソン（D・エリオット）は彼と息子ジョージ（J・サンズ）の眺めのいい部屋と交換してあげようと申し出た。

しかし、何事も秩序を重んじるシャーロットは断るが、同宿していたルーシーの地元教区のビーブ牧師に説得され申し出を受ける。

翌朝、一人で街を見物していたルーシーは、シニョール広場で喧嘩で胸を刺された男が血

だらけになって倒れる場面を目撃し、ショックで気を失う。ルーシーを救ったのは通り合わせたジョージであった。二人はお互いを意識する。ある日、近郊の溪谷へのピクニックに宿泊客は出かけるが、ルーシーとジョージは麦畑で二人きりになった時、激情にかられたジョージはキスをする。二人の仲に気付いたシャーロットは旅行を中止してイギリスに帰った。帰国して数カ月後、ルーシーは教養豊かなシシル・ヴァイス（D・D・ルイス）から求婚され、婚約する。そのシシルがロンドンで出会ったエマソン親子にルーシーの家に近い貸家の世話をしたことから、ルーシーとジョージは再会する・・・

解 説

イギリスの作家E・M・フォスターの同名小説を監督のJ・アイボリーが映画化した。フォスターには異なった価値観、宗教観を持つ者同士が触れ合うことで巻き起こす葛藤を描いた作品が多いが、この映画でも、20世紀初頭のイギリスの階級制度を皮肉りながら、新しい価値観のもとで成長していく若い恋人同士に祝福の手を差し伸べている。アイボリー監督も、イギリス中産階級の“因習と偽善”をシャーロットやシルを通して描き、エマソン親子の“自由な思想”の人々との対比を通して、鋭い文明

批判を加えている。

この映画の魅力は、20世紀初頭のエドワード7世治下の「エドワーディアン」といわれるイギリス社会の描写である。まず、イギリスの田園生活の美しさである。この時代、「カンントリーライフ」にあこがれて、都会の人々が田園生活を楽しむために多くの「カンントリーハウス」が作られた。また、アイボリー監督は、衣装、調度品に細心の注意を払ってこの時代の優雅な風俗を再現した。

平成 23 年度 第 24 回 鑑賞会

張込み

＜鑑賞日：2012・3・26＞

制作：1958年 松竹

上映時間：116分

監督：野村 芳太郎

原作：松本 清張

脚本：橋本 忍

出演：高峰秀子、宮口精二、大木実、田村高広、高千穂ちづる

あらすじ

警視庁捜査第一課の下岡雄次（宮口精二）と柚木隆男（大木実）の二人の刑事は質屋殺しの共犯石井（田村高広）を追って、佐賀へ発った。主犯の自供によると石井は拳銃を持っており、石井は3年前に別れた女さだ子（高峰秀子）に会いたがっていたという。さだ子は今は佐賀の銀行員横川（清水将夫）の後妻となっていた。佐賀にはまだ、石井の立ちまわった形跡はない。二人は、横川の家の前前の旅館に泊りこみ、早速

張込みを始めた。さだ子の再婚先は二十歳も歳の離れた銀行員で、子供は三人おり、吝嗇な夫からは一日百円の生活費しか渡されず、つましい生活をしている。二人の目に映ったさだ子は、とても犯人の石井の恋人だったとは思えない地味な女である。二人の刑事は猛暑のなかで昼夜を分かたず張込みを続けた。

三日目、四日目とむなしい張込みが続く。下岡は中年の子持ちの刑事だが、若い柚木はまだ

独身で、区役所勤めの弓子（高千穂ひづる）と交際しているが、家庭の事情から結婚に踏み切れないでいる。宿にこもりっきりの二人を不審に思った宿の女将は警察に届け出るしまつで

ある。七日目、動きがないので東京に戻ろうと下岡が佐賀署に打ち合わせに行き、柚木が一人でいる時、さだ子が外出した。柚木はあとを追うが、さだ子の足が速く行方を見失った・・・

解 説

松本清張の原作を橋本忍が脚色し、野村芳太郎が監督した。このトリオによる社会派推理ドラマの代表作である。わずか一週間のドラマだが、二人の刑事が車で犯人を追って佐賀へ向かうシーンから犯人逮捕に至るまで、一分の隙もない野村監督の演出で緊迫感溢れる映画となった。原作では刑事は若い柚木一人であったが、映画では下岡という中年のベテラン刑事を同行させた。二人の行動により、舞台は広がり、ドラマにふくらみを持たせた。暑い夏のさなか、

刑事達は油汗を流しながらひたすら張込みを続ける。カメラもまた、克明にその姿を追う。それが、原作では表せない緊張感をもたらしたのである。

高峰秀子の好演も光る。平凡な主婦が昔の恋人に会うと一変し、火の付いたように燃え上がる。女の哀しさが身に沁みる。

松本清張、橋本忍、野村芳太郎のトリオはこの後、「ゼロの焦点」（1961年）、「影の車」（1970年）、「砂の器」（1974年）の名作を生んだ。

平成 24 年度 第 1 回 鑑賞会

インドへの道 A Passage To INDIA

＜鑑賞日：2012・4・9＞

制 作：1984年 イギリス

上映時間：164分

監 督：デヴィット・リーン

原 作：E・M・フォスター

出 演：ジュディ・デイヴィス、ピクター・パナルジー、ナイジェル・ヘイバース

P・アシュクロフト、アレック・ギネス、ジェームス・ホックス

その他：アカデミー助演女優賞（P・アシュクロフト）、音楽賞（モーリス・ジャール）

あらすじ

第一次大戦後の英国の植民地インドのチャンドラポアへ、英国嬢アデラ（J・デイヴィス）は婚約者のロニー（N・ヘイバース）を訪ねる。ロニーは治安判事で、同行者のムーア夫人（P・アシュクロフト）はロニーの母親である。

壮大な自然と神秘的なインドに触れるべくムーア夫人とアデラはインド人と交友を深めようとするが、周囲の英国人からは好まれない。二人は英国人の特権意識と英国人に反感を持つインド人の対立を感じるようになる。ムーア

夫人とアデラはインド人の医師アジス（V・ヴァナジルジー）、インド人哲学者ゴッド・ポール（A・ギネス）、英国人の大学教授フィールディング（J・フォックス）と知り合う。

アジスの誘いで、ムーア夫人とアデラはマラーバール洞窟に行く。洞窟は暗く、小さな叫び声も大反響となってこだまする。気分が悪くなったムーア夫人を残して、アデラとアジスはさらに奥の洞窟に向かった。一人で洞窟に入ったアデラは、恐怖から精神に錯乱をきたし、急に一人

で山の斜面を駆け下りた。アデラは途中で転び、サボテンの針に刺され、血だらけになって救われる。アジスは駅で逮捕された。理由は、アジスがアデラに暴行したとのことで、アデラを助けたカレンダー夫人が告訴し、アデラも同意したからだ。裁判が始まり、反英感情は一気に高まった。アジスに有利な証言をさせないために、ロニーは母のムーア夫人に帰国を勧める。夫人は帰路、洋上で亡くなる・・・

解 説

英国の作家E・M・フォスターの同名の小説の映画化である。フォスターの小説は異なった価値観を持つ二つの文明の軋轢を描き、異文化文明と溶けあえない若い女性の悲劇を描いている。D・リー監督は、魔物のようなインドの大自然を見事なロケーションでとらえ、われわれ観客を圧倒する。リー監督の『アラビアのロレンス』のアラビアの砂漠シーン同様、映

画の魅力を存分に味合わせてくれた。リー監督（1908～1991）の映画は当会では、『逢引き』（1945年）、『旅情』（1955年）、『アラビアのロレンス』（1962年）、『ドクトル・ジバゴ』（1965年）とすでに4本観賞しており、映画ファンを楽しませてくれた。なお、この映画はリー監督の最後の作品である。



「浮雲俳句会」抄録 No.17

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

【日本の野鳥】

今年度の兼題「野鳥シリーズ」も回を重ね、余すところ、帰雁（3月）・雲雀（ひばり。4月）・時鳥（ほととぎす。5月）となった。

そこで今回は、「日本の野鳥」について、ダイジェストに復習しておこう。「日本の野鳥」は、“留鳥”（りゅうちょう）と“渡り鳥”に大別できる。“留鳥”は、季節的な移動をおこなわず、一か所に定住する鳥。例えば、雀・鳶・からす・雉（きじ）・翡翠（かわせみ）・雲雀・鳩・百舌（もず）などが挙げられる。

これに対し“渡り鳥”は、季節によって住む土地を変える鳥で、次の4グループに分類することができる。

① 旅鳥（たびどり）は、我が国より北方で繁殖し、我が国より南方で冬を越し、両地の間を往復する途中、我が国に立ち寄る鳥。…千鳥・鴨（しぎ）類〈背だかしぎ、雲雀しぎ、磯しぎ、浜しぎ等〉・胸黒（むらぐる）・鱒刺など

② 夏鳥（なつどり）は、夏の間我が国で繁殖して、冬は暖かい地方に移ってゆく鳥。…燕・ほととぎす・郭公・筒鳥・十一（じゅういち）・大瑠璃など

③ 冬鳥（ふゆどり）は、我が国より北方で繁殖し、寒くなると我が国に渡ってきて冬を越す鳥。…鶴・白鳥・雁・鴨・鶉（つぐみ）・常鶉（じょうびたき）など

④ 漂鳥（ひょうちょう）は、季節により食物を求めて、山と村落の間を往復する鳥。…鶯・目白・鶉（うずら）など

甲高い声とどろかす孕み鳥 一清

一月（睦月） H24年1月29日

一年の最初の月である。陰暦では1月を正月というが、現在では、正月といえば、新年のことである。

ひのもとの国旗を立てて年初め 一清

（以下第56回例会の投句）

初電車杖が杖へと席譲る（天賞） 一馬

「もっこす」の骨身のゆるむ槽火かな

（人賞） 十九

壬辰（みづのとたつ）、動物では「昇り竜」の年。また4年に一度の閏年＝オリンピック（ロンドン）の年。更に選挙イヤーであり、近隣では台湾・中国それに韓国。欧米ではロシア・フランスそれにアメリカにおいて大統領の選挙がある。

大志いま開かんとせり成人日 一清
寒林の闇縫ふ如く列車はず(特選) とも女
水仙に讚美歌の声しみわたる 一清

1月も上旬には、「寒の入り」となり、9日に「成人の日」を迎え、〈寒林〉を列車が走り、教会の〈讚美歌〉が〈水仙〉に〈しみわたる〉ようになる。

浮寝鳥波のまに間に見え隠れ(特選) 好童
おやこな小さな川に浮寝鳥(特選) 三且
かさねたる命のきづな浮寝鳥 一清

日本に渡ってきた冬鳥も、寒さのせい、翼

の中に首をつっこんで、浮いたまま眠っている。

冴える星億光年の果てにまで(特選) 二祥
寒昴逢へない距離と時間かな 一清

21日は「大寒」。この頃の星は空気が澄んでいて、大変綺麗だ。

拍手はげんこもごもご初天神(地賞) 一幸
さしのぼる朝日まろやか春隣(特選) 国眼

25日に〈初天神〉があり、学問の神様菅原道真に願かけをしたり、下旬ともなると日脚が伸び、〈春隣〉の感が漂うようになる。

二月(如月) H24年2月26日

2月に入ると3日は節分、4日立春。そして7日には、早々と「春一番」を思わせる嵐が吹き荒れ、気温も18度に上昇した。しかし、次の日には「寒の戻り」と春先の季節の変化は激しい。

豆打てり夷狄の鬼のみぞおちへ 一清

(以下第57回例会の投句)

薄氷や棺のなかには筆あまた(人賞) 勝美
薄氷をかざす子踏む子持つてく子(特選)
とも女

今年は例年以上に寒い日が続く。2月だというのに氷点下の朝が、ちよくちよく表われ、〈薄氷〉を見掛ける。

半分を省略したる初音かな 一清
無住寺に藪鶯の遠音かな(天賞) 一馬
鶯の息も切らさぬ谷渡り(特選) 十九
鶯の一鳴きありし雑木山(特選) 一祝
うぐひすのよぎりし気配雨の朝(特選) 一紀

〈鶯〉は、兼題「野鳥シリーズ」の第7弾。身近な春の訪れをつげる早春の鳥だけに、多くの佳句があった。とりわけ、「梅に鶯」というように、梅の咲くころに人里におりてきて、いろんな鳴き声をきかせてくれる〈鶯〉は、春告げ鳥と呼ばれるのが、一番似合う。

盲ひたる鑑真破顔梅真白 一清

二人して金沢めぐり木の芽風(特選) 国眼

梅が咲くとともに〈木の芽〉がふくらむ頃は、春の到来を一層実感する。

歩がひとつ捕られし駒に春陽差す(地賞)

勇平

実を見んと喜寿の記念に植樹せり(特選)

重九

百代の過客のひとり遍路かな 一清

春は光からというが、巡りきた春の明るい光のなかのいろんな景は、体中に喜びを運んでくれる。



三月(弥生) H24年3月25日

春を初・仲・晩の3つにわけた真中の仲春。北国でもやっと初春が始まった。その他の地域

では、春爛漫の好季節の到来だ。

立子忌や白酒持ちて寿福寺へ(地賞) 一幸

(以下第58回例会の投句)

払暁の散華となれり雪の果(人賞) 十九
軍艦を沖に置きたる朧月 一清

3日は雛祭で虚子の娘立子の忌日。5日は啓蟄(けいちつ)で虫が地上に出るころ。7日は望月と続いて、春の足音は足早だ。

帰る雁連写の杵をはみだせり(天賞) 国眼
囀や百羽飛び立つ地の響(特選) とも女
ロシア語の船のマストの帰雁かな 一清

3月上旬は渡り鳥(冬鳥)の北帰行の季節。鶴・白鳥・雁・鴨などが一斉に北を目指す。特に、昨年大震災のあったみちのくの宮城県伊豆沼や、秋田県八郎潟干拓地では、夥しい数の渡り鳥が飛び立つ。

あさまだき地球かきわけつくしんぼ

(特選) 一祝

蓬餅母と田舎の匂ひあり(特選) 重九
菜の花にまねて黄色のワンピース(特選)

祥代

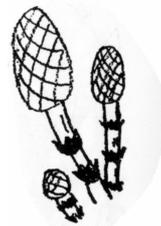
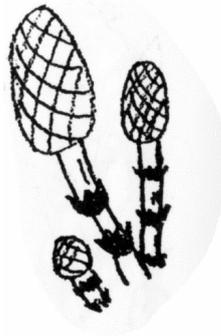
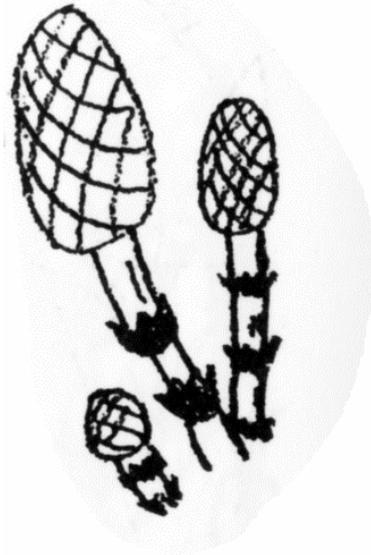
春の草は萌えいで、〈菜の花〉は勿論チューリップや黄水仙などが、春を満喫させてくれる。

蝶を追ふ子と母を追ふ機影かな 一清
赤青黄風に染めゆく風車(特選) 三旦
凧揚げや子の息に足す父の息 一清

3月も中頃になると、奈良の東大寺のお水取りあたりからは、戸外の活動も活発になる。

梅散りて輪中の出で湯誓子の忌(特選) 一馬

大正時代の4Sの一人、山口誓子の忌日は26日。〈海を出て木枯し帰るところなし〉の誓子の代表作をふと思い出すのだ。



六浦あちらこちら (1)

—無名の歴史・伝承・逸話など—

熊谷 哲

六浦は古くから「むつら」と呼ばれてきた。「むつうら」と云われるようになったのは昭和初期から。

鎌倉が政治の中心だった頃は六浦津は鎌倉の外港として、また江戸時代は金沢八景遊覧で栄えた。

横浜市唯一の大名米倉氏が現金沢八景駅裏の谷戸に陣屋を構え金沢藩となっていた。

六浦は正保頃(1644～48)六浦社家分村(瀬戸神社領)・六浦寺分村(常福寺領)・六浦平分村。後に社家分村・寺分村・平分村。明治5年(1872)合併して三分村。明治22年市町村制施行により釜利谷村と合併して久良岐郡六浦莊村大字三分。昭和11年(1936)横浜市磯子区六浦町、昭和23年金沢区六浦町。昭和53年以降住居表示が実施された。

以下各地域ごとにあまり知られていない習俗・伝承・逸話などを紹介する。

○ 六浦(一～五丁目)(昭和53年設置の町)

上行寺東遺跡：会報第40号掲載の山田氏の全てを網羅した記述は貴重。この遺跡の破壊を主導した横浜市の某局長の罪は深く、西方浄土へは行けないかもしれない、と思う。遺跡一帯は龍華寺の前身とされる浄願寺(蔵福寺)のあった場所として注目されている。

浄願寺の涅槃図：小田原北条氏を攻めた上杉謙信の軍勢が龍華寺から持ち去ったという。現在土浦市の法雲寺にある。茨城県重文。流転の経緯は不明。浄願寺(蔵福寺)は源頼朝の創建(伝)。

上行寺：古くは真言宗の金勝寺といったが、日

蓮の船中間答の結果日蓮宗の寺に改宗改名した。

榎の木：推定樹齢700年超とみられる巨木が、朝比奈切通登り口・瀬戸神社・上行寺にある。上行寺の榎の木は日荷(後述)が身延山から杖がわりに持帰った3本の内の1本という。また、大道の宝樹院の阿弥陀如来像は榎の木の一本造りである。

舟繋ぎの松：上行寺の境内にある。昔は寺の南方100m程の平潟湾の岸边にあった。船中間答の後日蓮の乗った船を繋いだ松という。現在の松は後代に植え替えられたもの。

日蓮の船中間答：日蓮が下総から鎌倉に向った際、下総の守護千葉氏の家臣富木胤継(後出家して常忍)の船に乗り、法論を行い、上陸後も寺に入り討論を続けた、という伝承。町屋の安立寺・六浦の金勝寺(後上行寺)・杉田の妙法寺が日蓮が上陸して入った寺と称している。

光伝寺：創建は天正1年(1573)。開基の長野六右衛門にまつわる伝承がある。「六右衛門が安房白浜で夜中に怪しげなものを切ったが翌朝見たら阿弥陀如来の首だった。持ち帰って光伝寺を建てた。夢見で鎌倉に胴体があるとお告げで、探して一体として本尊とした」という。本尊は阿弥陀如来立像。寺宝に地藏菩薩立像(県重文)、両躰弁財天像がある。

侍従川の名は川がこの寺の中を流れていたの

で「寺中川」が転化したという説もある。境内に並木天満宮がある。裏山を光伝寺山といい、江戸時代後期に金沢探勝の展望所・茶店があった。

富士山を入れた色刷の金沢八景景勝案内図を発行していた。

長生寺：元は真言宗の寿楽寺といい小泉こずみにあったが、康安の頃(1361～62)現在地に移った。文明年間(1469～87)蓮如の教化で頓乗が天文1年(1532)に改宗改名した。区内で唯一の浄土真宗の寺。

油堤：西六浦交差点から侍従橋にかけてにあった堤防。照手姫を探しに来た侍女が姫の化粧油入りの箱を残して入水したことに因む。一説に「昔鰯の豊漁がありここで鰯を煮て油を採った」ことによる。

小栗判官照手姫伝説：『鎌倉大草紙』にある。説教浄瑠璃にも登場。常陸の住人小栗判官満重に謀反の疑いありとて応永30年(1423)鎌倉公方足利持氏が討伐するが落延びる。途中賊の難にあうが、照手姫の気転により命拾い、遊行寺で介抱され三河に行く。後疑いが晴れて復帰。照手姫は賊に追われ六浦の川に投げ込まれる。千光寺の観音のおかげで助かる。助けた村君大夫(漁業の長)の妻の嫉妬により松葉でいぶされ、美濃の遊女に売られる。判官は捜し出して妻とする。判官の死去(応永33年)後、姫は遊行寺近くに庵を作り、夫や従者の菩提を弔った。その庵は藤沢遊行寺の子院長生院といわれ、小栗や姫などの墓がある。関連項目は油堤、侍従

を継ぎ鎌倉公方足利氏満と戦うが敗れ、応永4年(1397)会津で自害、遺児2名(7歳、5歳)が捕えられ、鎌倉送りとなり、六浦の海に沈められた。平田恒吉が『金澤と六浦荘時代』で二児の墓と推断してから一般化した。それまでは「玉世姫の墓」とされており、手を触れると瘡おこりを病むとて近づく者はいなかったという。

藩校明允館：慶応1年=1865～明治2年=1869、金沢藩士対象の藩校、教師は佐藤忠蔵・宮川一宗。

三分学舎：明治6年光伝寺内に開設、現在の六浦小学校の前身。

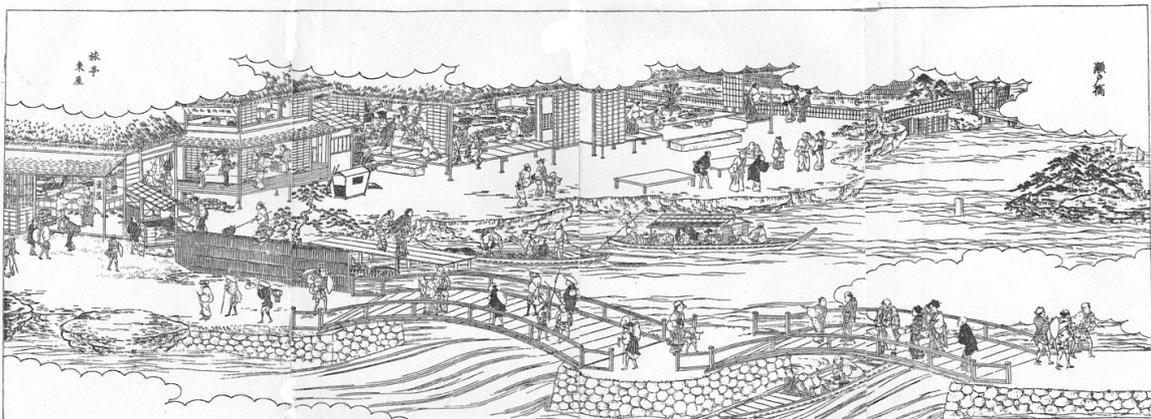
六浦小学校と大道小学校の歴史資料室：両校に歴史資料室があり、諸資料・古民具・農機具などを収集。

三分村役場：明治期の役場は2階建てで、西六浦交差点の長生寺側の角地にあった。

青い目の人形：米国政府の排日政策による日米間の険悪化の緩和に寄与しようとした米人宣教師の発意で、昭和2年(1927)全米各地から送られてきた人形。12,739体。その内の1体が六浦小学校に贈られたミス・ホーソン人形。昭和40年の学校火災で焼失した。

○ 瀬戸(昭和53年設置)

瀬戸橋：嘉元3年(1305)金沢貞顕が架橋。家康



瀬戸橋(『江戸名所図会』より)

川、千光寺、姫小島など。

小山若犬丸二児の墓：上行寺西の崖の上にある五輪塔。南朝側の小山隆政(若犬丸)は父の遺志

が金沢に来た時「岩たたく波のよるべに来てみれば月さえ渡る瀬戸の角橋」と詠んだ。

瀬戸神社の天王祭：毎年7月上旬の8日間にわたり行われる牛頭天王の巡幸祭。配祀神の須佐之男命を天王として神輿に遷座、三ツ目神楽(3日目に行われる湯立神楽)など奏上、最終日には神輿が六浦の全ての地区を巡幸、拝殿前に戻り、ご神体は本殿に還御される。神職によれば、昔巡幸の祭列に向かって盛んにきゅうりが奉獻されリヤカー一杯になり、戻ってからの塩漬け作業が大変だった、という。全国の天王祭にきゅうりと河童の俗信がまつわりついている(佐野著『瀬戸神社』の表現)ことは、この祭が農村の水の神の祭だったことを物語っている。昭和22年の天王祭の記録DVDがある(複製可能)。

瀬戸神社の茅の輪：茅の輪は茅や菅を束ねて輪にしたもの。大祓(12月大晦日と夏越の祓)の

命に係る伝承が起源。

謡曲「放下僧」：下野の住人牧野小次郎が兄と共に放下僧に身をやつし、父親の仇の相模の住人利根信俊を瀬戸神社境内の三本杉のところで討ちとる話。放下僧とは中世から近世にかけての大道芸人の一つ。多く僧形をしていたので放下僧と呼ばれた。手品や曲芸など唄に合せて太鼓などで調子をとった。

金龍院：能仁寺の塔頭的存在で、開山の方崖元圭(?~1383)の塔所だったとみられる。境内の九覧亭の東側崖下にはやぐらがあり墳墓だった。境内の飛石は瀬戸明神の影向石。

九覧亭は江戸時代後期金沢遊覧の中心となった。寺は金沢八景の案内絵画を多数発行していた。仏教絵画・彫刻も多く、方崖元圭坐像と境内の九覧亭は指定文化財。金沢藩の藩士の墓が多い。



瀬戸神社の茅の輪 (吉田純一氏撮影)

時に茅の輪くぐりが行われる。8字形に3回くぐり拝殿に進む。『備後国風土記逸文』(积日本紀=1301頃成立?)に記載されている「茅の輪を腰に付ける人は災厄を免れる」という須佐之男

といえり」(『雲根志』)。この寺は金龍院説が有力。

泥牛庵：鎌倉幕府最後の執権北条高時の遺託により南山土雲(1254~1335)が開山。黄檗版大般

谷文晁が寛政5年(1793)に描いた九覧亭からの眺望図「公余探勝図・武州金沢昇天山九覧亭旧跡眺望」がある。**龍石**：「武蔵国金沢の一寺の住僧硯を愛する癖あり。ある日大雨す。愛するところの硯たちまち破れて雷電震動してその硯の龍あらわれ出て天に昇る

若経 600 巻がある。境内に永享の乱で自害した海老名兄弟の宝篋印塔がある。

裏山をお茶山とか大観山といい、金沢藩の見張台(または見晴台)があった。明治中後期には大観亭という茶亭があり、藍一色の粗末ではあるが金沢八景景勝案内図を発行していた。

四角四境祭と七瀬の祓：陰陽道の祭祀。宮中の行事だったが、鎌倉幕府もこれに倣った。四角は御所の四隅で良・巽・坤・乾の方をいう。四境は領域外で六浦・小壺・稲村・山内。七瀬は由比浜・金洗沢池・固瀬河・六連・鮎河・杜戸・江嶋龍穴。『吾妻鏡』に記録がある。六連は六浦のこと。

六浦の問丸：中世、六浦で海上輸送を取り仕切った廻船業者。房総や利根川中流域からの物資輸送を行い、後には為替も扱った。光善などの有徳人を生んだ。江戸時代の問屋の源流。

荒井平次郎光善(日荷)の仁王運び：光善(1261?~1353)が称名寺の住職との賭碁に勝って賭けていた称名寺の仁王を身延山に運んだという。これにより日荷という。実際は金勝寺(上行寺)の小さな仁王。

光善は問丸の成功者で、邸宅が金龍院前の国道16号辺りにあり、荒井(金沢七井の一つ)があっ

た。自ら開基となり上行寺と杉田の妙法寺を改宗再興した。瀬戸橋の架替え費を全額負担した(1353)。

太田道灌山吹の里：金沢で狩をした帰りに俄か雨にあい雨具を借りに民家に寄った際少女が山吹の花を差し出したという説話。「ななへやへ花は咲けども山吹のみのひとつだになきぞあやしき」(『後拾遺和歌集』)から「蓑笠が無い」という意味を知り、道灌は歌道に励んだという。場所は「お屋敷」辺り説。

金沢藩：享保7年(1722)第4代皆川藩主米倉忠仰が瀬戸に陣屋を置いたのが金沢藩の始まり。忠仰は柳沢吉保の六男保教で米倉昌照の養子。明治初期まで8代約150年続いた。1万2千石。陣屋は金沢八景駅西側の谷戸全体。土地の人はここを「お屋敷」と呼んだ。金沢では六浦(3村)・釜利谷(宿村と赤井村)・寺前村を支配。ペリー来航時にも活躍した。六浦に陣屋を構えさせたのは幕府の意図とみられている。

映画館：瀬戸神社の前で、現在の葬祭場になっている所にあった、主に洋画を上映していた「金沢シネマ」。昭和25年開館。邦画上映を主にした「キリン座」が谷津にあった。



『吾妻鏡』を読む(4)

小倉 英明

一、正治元年(一、一九九)正月十三日、源頼朝は五十三才でこの世を去りました。

左記は、『吾妻鏡』建久六年(一、一九五)八月からの記述の要旨です。

八月十五日 鶴岡の放生会に頼朝参宮

十九日 頼朝 嵐掃莚す

廿六日 頼朝 三崎に渡御、御遊覧

十月 七日 鶴岡臨時祭、頼朝参宮

十五日 大娘、護心の加持により回復

十一月二日 頼朝 鶴岳に参宮

十二月廿二日 頼朝安達盛長の邸に止宿

一二年一ヶ月分が欠一

建久十年(四月廿七日、正治元年となす)

二月六日 羽林殿下頼家左中将に昇進

三月二日 故將軍頼朝四十九日の仏事。

導師は大学法眼行慈

四月廿三日 故將軍 百ヶ日の仏事。

導師は法嚴房阿闍梨行勇

正治二年(一、二〇〇)

正月十三日 故將軍一周忌の仏事。

導師は葉上房律師宋西

二、頼朝臨終の前後の状況や頼朝の死による鎌倉の混乱、盛大な葬儀の様子など一切はこの三年一ヶ月分の欠文で間の中です。

しかし、『吾妻鏡』は十三年後(暦一、二二二)僅かに語ります。

「建暦二年二月廿八日 乙巳

相模國 相模河橋 数ヶ間朽ち損ず略)

去ぬる建久九年 重成法師これを新造し、供養を遂ぐるの日経縁のために故將軍家渡御す。還路に及びて御落馬あり。幾程を経ず聽したまひをほんぬ

三、脱漏と死因

① 晩年の頼朝は老人性痴呆症だった。人には知られたいくない状況だったから『吾妻鏡』は始めから書かなかった。

② 徳川家康が頼朝の死にざまは「名將の疵になる」後世に伝えるわけにはいかないと破棄させた(『書談一言集』新井白石) などありますが、実朝の場合と同様に謎です。

死因についても、①頼朝の近習が怨みで刺殺 ②橋住義の帰路 平家の亡霊に会い馬が暴走して落馬 ③橋住義の帰路 平家の残党の襲撃により負傷して落馬など諸説あり。

歌人藤原定家の日記『明月記』では頓病急死とあるのみ。天台僧慈円の歴史書『愚管抄』では所労病急としか書かれていない。

具体的な病名をあげているのは当時右大臣の近衛家実の日記『深淵園日記』で、「前右大将頼朝脚飲水ノ病により御逝去」とあるから飲水糖尿病による両脚の衰弱、そのための落馬、そして外傷の悪化による死亡かもしれません。

△追伸
JR茅ヶ崎駅からバス停軒屋下車一〇分、西へ進むと、小出川手前の柵に囲まれた池のなかに古相模川の橋脚が保存されている。橋脚の直径は約六〇センチ、材はいずれも松の丸太で、三本が横に並んで四列あり、この橋の幅が七メートルだったことが判る。

この橋脚は大正十二年(一、九三三)の関東大震災の時に水田のなから現れたもので、鎌倉時代の初期、稲毛重成が亡妻の追善供養のために相模川に架けた橋の脚部と推定されている。

(『源頼朝のすべて』奥谷富敏編より)

行事予定

2012年6月～8月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	6月	7月	8月
学習会	100回記念講座 6月29日(金) 県立金沢文庫 10:00～12:00 称名寺と金沢氏 県立金沢文庫長 永村 眞 氏	7月14日(金) 金沢 CC 9:30～12:00 三浦一族の興亡① 誕生から鎌倉幕府成立まで 青山学院大学 講師 真鍋 淳哉 氏	8月4日(土) 県立金沢文庫 9:30～12:00 鎌倉密教 県立金沢文庫 主任学芸員 永井 晋 氏
寺社を巡る会	6月7日(木) 集合:小田急高座渋谷駅 テーマ:高座渋谷、飯田地区 行動:鯖神社、本興寺、飯田神社、無量寺、三柱神社、佐馬神社、富士塚城址	7月5日(木) 集合:京急屏風浦駅 テーマ:杉田屏風ヶ浦地区 行動:森浅間神社、林香寺、篁修寺、東漸寺、杉田八幡、妙法寺	8月2日(木) 集合:未定 テーマ:DVD鑑賞 (百寺巡礼IV)
古文書を読む会	6月14日(木) 金沢公会堂 9:00～9:50 基礎講座 10:00～12:00 鹿島家文書 6月28日(木) 金沢公会堂 9:00～9:50 基礎講座 10:00～12:00 江戸期の相模・江戸地震	7月12日(木) 金沢公会堂 9:00～9:50 基礎講座 10:00～12:00 鹿島家文書 7月26日(木) 金沢公会堂 9:00～9:50 基礎講座 10:00～12:00 坂下門外の変	8月9日(木) 金沢公会堂 9:00～9:50 基礎講座 10:00～12:00 鹿島家文書 8月23日(木) 金沢公会堂 9:00～9:50 基礎講座 10:00～12:00 坂下門外の変
ふれあいの道歩こう会	6月21日(木) (雨天:6/22) 茨城コース No.12 果樹園のみち	7月19日(木)～20(金) 番外 霧ヶ峰と北八ヶ岳(長野県)	夏休み
懐かしの映画を観る会	6月11日(月) 金沢 CC 12:10～ 黒い雨(独立) 6月25日(月) 金沢 CC 12:10～ エイト・ピアフ・愛の讃歌(仏)	7月9日(月) 金沢 CC 12:10～ フラガール(独立) 7月23日(月) 金沢 CC 12:10～ 山猫(伊)	8月6日(月) 金沢 CC 12:30～ 寅次郎と殿様(松竹) 8月27日(月) 金沢 CC 12:10～ イングリッシュ・ペイシエント(米)
浮雲俳句会	6月3日(日) 9:30～ 金沢 CC テーマ:金沢区民俳句大会	7月29日(日) 9:30～ 金沢 CC テーマ:箱根山	8月26日(日) 9:30～ 金沢 CC テーマ:筑波山
パソコンを使いこなす会	6月5日(火) 金沢 CC メール基礎講座 -アドレス帳・署名・添付資料- 6月19日(火) 金沢 CC EXCEL 復習講座 -①入力と書式-	7月3日(火) 金沢 CC EXCEL 復習講座 -②加減乗除- 7月10日(火) 晴嵐かなざわ WORD 復習講座 -④ワードアートII- WORD 基礎講座 -文書印刷-	8月7日(火) 金沢 CC WORD 復習講座 -⑤テキストボックス- 8月21日(火) 金沢 CC WORD 復習講座 -⑥罫線I-
	9:30～12:00:	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先: 学習会 782-8147(小俣) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 783-4539(宮原) 懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日	平成24(2012)年5月12日
<p>“わ”の会会報は前号40号でまる10年を迎え、本号から表紙の装いも新たにまたその号を重ねて行くこととなります。本号では新年度に当たり“わ”の会代表や各分科会代表から挨拶・方針が示され、その内容をお知らせしています。会報はこうした会員全員に知って頂きたいこと、あるいは貴重な研究・活動結果を文字情報でお伝えしています。これからも読みやすく分かりやすい会報を目指して会報編集を行ってゆきたいと思っております。(TY)</p>	発行月	4回(2, 5, 8, 11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門利晴
	編集委員	貝田誠作 田中徳明 伊達一雄 吉田寿紀 相川 勲 金間誠一 金久保常二